

防衛大学校教授による

第29回 現代の安全保障講座

国際人の教養としての軍事学、日本の安全保障と軍事科学を学ぶ

令和5年12月12日(火) 13:20～16:30 (開場 12:50)	場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷 3階「瑠璃中の間」 住所：新宿区市谷本村町4-1 電話：03-3268-0111
--	---

『AIは戦争をどう変えるか?』

防衛大学校 准教授 佐藤 浩 氏

(時間/13:25～14:45)



『中国・第3期習近平政権1年の評価と今後の展望』

防衛大学校 教授 佐々木 智弘 氏

(時間/15:05～16:25)



【聴講定員】 100名 (先着順)

【聴講申込】 聴講無料

住所・氏名・連絡先をメール又はFAXで**11月21日(火)**までに下記にお申込み下さい。

先着100名まで受付けます。(聴講できない場合はご連絡いたします。)

体温が、37.5度以上の方はご遠慮ください。

状況により、中止(ご連絡いたします)或いは一部変更となる場合があります。

[お問い合わせ] 全国防衛協会連合会事務局

メール: jim@ajda.jp

TEL: 03-5579-8348

FAX: 03-5579-8349



■主催：全国防衛協会連合会

■後援：防衛省

■協賛：防衛大学校同窓会、

(公財)防衛大学校学術・教育振興会

<講師> 電気情報学群 情報工学科 准教授 佐藤 浩 (さとう ひろし)

<テーマ> AIは戦争をどう変えるか?

<講義概要>

人類の歴史は戦争の歴史である。現在、確認されている最初の戦争は、1万5千年前の旧石器時代にスーダンで発生したものである。それから現在まで、戦争は絶えることなく続いているが、その様相はその時代における科学技術に大きく依存する。スーダンで使われた槍と矢から、鉄器、火薬、化学兵器、核兵器と発展していく科学技術は、戦争のやり方をそれまでとは根本的に変えてしまう。この革新的な科学技術の列に新たに加わろうとしているのがAI（人工知能）である。近年のAIの発展は凄まじく、従来不可能であろうと思われてきたことが次々と実現されている。本講演では、戦争と科学技術の歴史を踏まえ、今後AIがどのように戦争で使われるのか、またどのように戦争を変えていくのかについて解説する。

<略歴>

1992年3月 慶應義塾大学理工学部物理学科卒業
1994年3月 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士前期課程知能科学専攻修了
1997年3月 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程知能科学専攻終了（博士（工学））
1997年4月 大阪府立大学総合科学部助手
1999年4月 防衛大学校情報工学科助手
2002年~2003年 豪州ニューサウスウェールズ州立大学計算機科学科客員研究員
2007年4月 同准教授

<著書論文等>

T. V. Dao, H. Sato, M. Kubo, "An Attention Mechanism for Combination of CNN and VAE for Image-Based Malware Classification," IEEE Access, Vol. 10, pp. 85127-85136, 2022
D. V. Bui, T. Shirakawa, H. Sato, "Autonomous Unmanned Aerial Vehicle Flight Control Using Multi-Task Deep Neural Network for Exploring Indoor Environments," SICE J. Control, Measurement, and System Integration, Vol.15, No. 2, pp. 130-144, 2022
H. Sato, S. Iawanaga, A. Ishii (Eds), Proceedings in Adaptation, Learning, and Optimization Vol. 12, 2020
喜多, 森, 小野, 佐藤, 小山, 秋元, 人工市場で学ぶマーケットメカニズム U-Mart 工学編, 共立出版, 2009
ワイドリッヒ (著), 有賀, 佐藤(監訳), ソシオダイナミクス - 社会システムの物理学的方法, 森北出版, 2007

<講師> 人文社会科学群 国際関係学科 教授 佐々木 智弘 (ささき のりひろ)

<テーマ> 中国・第3期習近平政権1年の評価と今後の展望

<講義概要>

2022年11月に発足した第3期習近平政権の1年を評価し、今後の展望する。最高指導部を自らの人脈で固めた習近平の権力基盤は強化された。他方、西側諸国による対中包囲網が築かれ、コロナ後の経済回復・好転は思うように進まない状況を、習政権は一党支配の危機と認識し、社会に対する統制と西側への対抗を強めている。こうしたときこそ、習政権に対する根拠のない思い込みによる評価は禁物であり、冷静に習政権の内政状況と外交を検証し、今後の課題を考えたい。

<略歴>

1990年3月 筑波大学第三学群国際関係学類 卒業
1994年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程 修了
1994年4月 日本貿易振興機構アジア経済研究所 入所
2014年3月 防衛大学校 准教授
2017年3月 南山大学大学院総合政策研究科博士課程 修了(博士(総合政策))
2021年4月 防衛大学校 教授

<著書論文等>

単著『現代中国の官僚組織行動—電気通信事業改革の政治過程』法律文化社、2021年（第38回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞奨励賞）
共著『点検 習近平政権—長期政権が直面する課題と展望』文眞堂、2023年
共著『習近平「一強」体制の行方』文眞堂、2022年
共著『〈米中新冷戦〉と中国外交』白水社、2020年